

# ニューヨーク日本人学校における実践と成果

前ニューヨーク日本人学校 教諭

埼玉県草加市立両新田中学校 教諭 石井 里美

キーワード：在外教育施設、現地学校訪問、スポーツ交流

## 1 はじめに

在外教育施設であるニューヨーク日本人学校への3年間の研修出張の間、スポーツ先進国のアメリカで現地校や教育施設を視察し、調査・研究を行ってきた。現地で人脈作りを積極的に行い、多くのことを体験し学んだ。スポーツがひとつの大きな文化として成り立っているアメリカでは、様々な競技のプロリーグが存在し、多くの選手がオリンピックなどの世界大会で活躍している。また、学校体育の内容や施設など、とても充実しているイメージがある。そんな環境で現地校訪問、授業実践をして学んだことを今後の教育活動に生かしたいと考えた。

## 2 学校訪問

### (1) Ponus Ridge Middle School (Norwalk Connecticut)

Norwalkにある公立中等教育機関。11歳～14歳の生徒が学ぶ。生徒632名、教師52名。6年生から日本語を選択教科としていてニューヨーク日本人学校の7年生と交流をしている。体育の時間は週2日～3日ある。楽しみにしている生徒も多い。外で授業を行うことはなく体育館で球技を中心に行っている。

### (2) East-West School of International Studies School (Flushing New York)

New YorkのFlushingにある公立学校。6年生から12年生までの生徒が在籍している。アジア系の生徒や母国語が英語でない生徒も多い。中国語、韓国語、日本語のコースを提供することにより、グローバルな知識と視点を持つ学生を育成している。体育の授業は、週に3～4時間ある。教師が様々な種目を教えるのではなく、専門性を生かした教育が行われている。8年生がダンスの授業を行うのを見学した。運動できる範囲は限られているが、音楽を流し、気分をリラックスさせて活動させるなど工夫をしていた。また、「GYM」という授業があり見学した。ここでは生活の中に積極的に運動を取り入れようというもので、ジョグやストレッチなどどこでも誰でもできるような運動を指導していた。

## 3 日本人学校での実践

本校も多くの児童生徒が、体を動かすことが好きである。グリーンタイム（業間休み）やランチリセス（昼休み）には、ドッジボール、バスケットボール、鉄棒などで体を動かしている。中等部のほとんどの生徒が運動不足と感じているため、休み時間には積極的に体を動かしている。体育の授業だけでは、体力がつかないということも自覚しているため、いつでも思い切り体を動かして汗をかく。私は3年間、運動を通して「集団としての規律」「運動量の確保」「楽しさを伝える」という3点に重点をおき、授業を行ってきた。



初等部と中等部で一緒に体を動かす「縦割り遊び」がある。本校の特色の一部でもある小中一貫教育の一部でもある。



安全面を考えて鉄棒の下にはコルクが敷いてある。子供たちも一生懸命練習する。

## ○スポーツ交流

7、8年生がチームを組み、サッカー、バスケットボールで現地校とスポーツ交流を行った。試合の1～2ヶ月前から休み時間を使って練習する。部活がない中等部にとっては、とても貴重な経験である。自分の目標をもつことはもちろん、仲間のために頑張ることや周囲に感謝をすることなど、スポーツを通して社会性を身に付けることもできた。また、生徒にとっては学んだ英語でコミュニケーションをとる貴重な場でもある。交流を終えると「毎日大変だったけど技術も身に付いて、楽しかった」「最初のころに比べると中等部の団結力が高まった」など、達成感を味わい、頑張って良かったと多くの生徒が述べていた。



サッカー交流やバスケットボール交流などアメリカのルールでゲームを展開することが多いが、相手を敬い、フェアプレーの精神で交流することができた。

## 4 終わりに

今回、現地校を視察したり、現場で働く方から直接話を聞いたりすることで、書籍からは学ぶことのできないアメリカの教育事情について学ぶことができた。アメリカでスポーツ観戦や実際に現地の人と交流することで、スポーツは心を豊かにし、人と人とを繋ぐ大切なものだと改めて感じた。また実際に生活して「この食生活や生活様式では危険だ」と感じたことは何度もあった。しかし、アメリカでも健康に関して問題意識はもっており、機関が様々な対策を行っていることも知った。今回の調査・研究で学んだことを次の現場へ生かしていくと同時に、今後も他国の教育についても調査・研究を図り、より良い教育についてさらに考えを深めていきたい。